

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第209回定期演奏会

The 209th Regular Concert

うつつ

現と異界のはざままで

～日本怪異譚～

演出：川崎絵都夫
構成：元永拓
舞台監督：中島隆

2013年7月1日[月]
午後7時開演
津田ホール



主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
助成：平成25年度文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)

後援：公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail： office@promusica.or.jp



現^{うつつ}と異界のはざままで ～日本怪異譚～

本日はお忙しい中を、第209回 日本音楽集団 定期演奏会 にお越し頂き、誠にありがとうございます。

人間には、過去の経験や気持ちの影の部分・負の部分など、日頃あまり表に現すことの少ない「よなしごと」を、妖怪や幽霊・神話などに投影して心の平安を保ってきた歴史があります。そして、それらの事象を単に恐怖や畏怖の対象にするだけでは無く、愛着を持ったり折に触れて思い出すことで心や身体の「光と影」に折り合いをつけてきました。

夏の夜のひとときを、古くから日本人の心に寄り添ってきた邦楽器による「怖〜いお話しと演奏」でごゆっくりお過ごし下さい。

1、カシオペア21 作曲：三木稔(1982)

Cassiopeia 21

[主奏二十絃]熊沢栄利子

[短二十絃]三宅礼子

[二十絃]桜井智永 久本桂子

[低二十絃]丸岡映美

日本音楽集団の創立メンバーであり、内外で数々の名作を遺した故・三木稔氏(1930~2011)の1982年の作品で幕を開けます。

怪談話と言えば夜。夜空に浮かぶ「カシオペア座」をいろいろな大きさの五面の二十絃箏で表現したこの曲で、今宵の日本怪異譚へと誘ってまいりましょう。

「天の北極に近く、銀河に浮かぶカシオペア座は、五つの星がW形に並び、北極星を見出す目印ともなる。この曲はβ、α、γ、δ、εと並ぶカシオペア座のフォーメーションにヒントを得て、二十絃箏の五重奏への理想を表現しようとした。高音部の二十絃箏、合奏の基部に低音二十絃箏を配し、中に三面の通常の二十絃を持つ五重奏は、響きのバランスと輝きにおいて、箏による合奏の最良のものを出し得よう。

[委嘱 二十絃エコール] (作曲家)

2、黒塚-KUROZUKA- 作曲：高橋久美子 委嘱初演

KUROZUKA for Japanese Instruments Orchestra

[笛・能管]竹井誠

[竜笛]あかる潤

[尺八I]渡辺淳 田野村聡 [尺八II]元永拓 大賀悠司

[三味線]穂積大志

[琵琶]久保田晶子

[箏I]桜井智永 佐藤里美 [箏II]久東寿子 前川美保子

[十七絃]丸岡映美 岡山亮子

[打楽器]盧慶順 山内利一

[指揮]稲田康

「安達原の鬼婆」と聞けば、旅人の生き血を吸い、肉を食らっていたといわれる身の毛もよだつような伝説がある。

が、能での「黒塚」(観世流は「安達原」)では、ただ恐ろしいだけの女ではなく、どこか悲哀が感じられる。ここでの「鬼」は孤独や悲しみ、そして生きるために犯してしまった業に苦しんだ末に「鬼」にならざるをえなかったわけで、宿を貸した山伏を最初から食らおうとは思っていない。むしろ自分が鬼だという秘密をあばかれた「怨」が焔となり、ヒトの心が鬼へと変わってしまったのだ。

この「黒塚-KUROZUKA-」では、とすれば鬼となりえるヒトの心の二面性を音で表現できたらと思う。

(作曲：高橋久美子)

3. 組曲「幻獣絵巻物」 作曲：篠田大介 委嘱初演

Suite for "Genjū Emakimono"

1. 鶴 2. 天狗 3. 人魚 4. 鳳凰

[指揮] 苦米地英一

[笛] 遠藤悠紀 [尺八 I Solo] 元永拓 [尺八 II] 大賀悠司

[尺八 II Solo] 渡辺淳 [尺八 II] 田野村聡 [三味線] 箕田弘大 [琵琶] 藤高理恵子

[二十絃 I] 熊沢栄利子 久東寿子 [二十絃 II] 三宅礼子 前川美保子

[十七絃 I] 久本桂子 [十七絃 II] 佐藤里美 [打楽器] 山内利一 島村聖香

この作品は、日本に古くから言い伝えられている様々な個性的な幻獣たちを音楽的に表現し、絵巻物のように一つの組曲としてまとめたものである。

当初は、怪異譚という演奏会のタイトルにふさわしく、不気味で怖い幻獣のみを描こうと考えてその題材を模索していたが、そのうちに、実は日本の妖怪や幻獣には、怖いだけではなく色々なキャラクターがあることを知った。そこで、それらの中から4つの幻獣を選び、その様々な個性を活かしながら、一つの組曲に構成しようと考えた。以下に、それぞれの幻獣の特徴やキャラクター、各楽曲の解説を記す。(作曲：篠田大介)

1. 鶴 サルの顔、
タスキの胴
体、トラの手足を持ち、
尾はへビであるという、
大変奇妙な変形をした
幻獣。ヒョー、ヒョー、
とこれまた大変奇妙な声
で嘸くと言われており、
楽曲の冒頭の尺八はその
声を模している。組曲
の中では、やや怖ろしく
不気味なキャラクターの
設定となっている。

2. 天狗 言わずと知
れた妖怪の
代表格で、一般的に鼻が
長く、手に葉扇扇を持ち、
背中には翼があって空を飛
翔すると言われている。また
天狗は、山の中に住む妖
怪と神様の中間的存在「鬼
神(きしん)」と考えられて
おり、良きものと悪きもの
両方のキャラクターを持ち、
人間たちとの間わりも深かつ
たと伝えられている。この楽
曲では、やや滑稽で人間味
のある性格の天狗が表現さ
れている。空を翔んでいる
感じや戯けたニュアンスを楽
しんでお聞き頂きたい。

3. 人魚 組曲全体のバランスとして、
三曲目には何かしつとりと美し
い幻獣を置きたいと考え、人魚を設定した。と
ころが、詳しく調べてみると「儂く美しい人魚」
は、アンデルセンの人魚姫などから来ていたイ
メージであって、日本の人魚はなんとも生々し
くむしろ不気味な様相であった。中には、頭
以外が全て鱗で覆われていたり(もはや人面
魚?)、中年の男性の顔をした人魚だったり、
なかなか衝撃的な人魚とも多数出会えたの
で、ご興味のある方は(あまりお勧めはしない
が)調べてみられても良いかもしれない。
今回のこの作品は、美しく儂い方の人魚のイ
メージで作曲されている。水底から泡が立ち
昇る中で、ヒラリと尾を翻す人魚、直後に波
の飛沫が静かに光る、そういった艶やかで幻
想的な情景を描いている。ぜひ人面魚などは
お忘れになってお聞き頂ければ幸いと思う。

4. 鳳凰 古くは中国から、日本を始め東アジア
域に渡来した伝説の鳥で、孔雀に似
ているとも、鶴のように様々な動物の部位が集まった
変形とも言われている。
五色絢爛に輝く美しい鳥とされ、また不老不死など
にも通じる縁起の良さから、美術や建築などの意匠
に用いられていることはご存知の方も多いと思う。そ
の美しさ、華やかさのイメージから、終曲に相応し
い幻獣として設定された。楽曲は、冒頭の力強い
トゥッティの後、まず箏群、次に管楽器群という順に、
各楽器群がそれぞれ技巧的な奏法による華やかな
セクションを連ねていき、最後に再び全楽器による
トゥッティとなって鮮やかに終曲する作りとなってい
る。また、全体を通して、美しさや華やかさだけで
なく、風または火を司る霊鳥としての「烈しさ」を湛
えた楽曲となっている。邦楽器ならではの、立ち上
がりの良い弾けるような音の殻によって現れる、華や
かで烈しい鳳凰の姿を、お楽しみ頂ければと思う。

4. 百物語～語りと邦楽器のための夏の夜の怪異譚 作曲：吉松隆(1994)

Hyaku-Monogatari ~From The Story 100~

- 一、序
- 二、百物語の由来
- 三、捕えた大なまずの話
- 四、殺された座頭の話
- 五、間奏曲
- 六、人牛(くだん)の話
- 七、ネコがものを言った話
- 八、屍を食う女に追われた話
- 九、百鬼夜行

[指揮] 田村拓男
[語り] 久保田晶子
[笛・尺八 II] 竹井誠
[尺八 I] 米澤浩 [尺八 III] 原郷隆
[三味線] 山崎千鶴子
[琵琶] 藤高理恵子
[箏] 三宅礼子 [二十絃] 桜井智永
[十七絃] 久本桂子
[打楽器] 尾崎太一 島村聖香

古来より「百物語」というのがある。月の暗い夜、青い紙を貼った百の行燈に灯をともし、青い小袖を着て円座になる。そして、ひとつ怖い話を語ってはひとつ消し、またひとつ語ってはひとつ消し、すべての灯が消えた時、必ず怪異が起こるといふ。

このモノドラマ「百物語より」は、その話を元にした邦楽器と語りによる夏の夜の怪異譚。話の原典は「和漢怪談評林」「伽婢子」「諸国百物語」「怪談登志男」「耳袋」「今昔物語」「日本霊異記」「江戸怪談集」などから現代の「学校の怪談」までを参考にして自由に翻案したもの。

それぞれの怪異は、ほぼ特定の独奏楽器による伴奏で語られ、尺八・横笛・琵琶・琴・三味線などの楽器の紹介も兼ねている。

現代音楽や邦楽器の音楽はよく「オバケが出そう!」と言われる。微妙なゆらぎを持つ音が不安定さを感じさせ、人間の心の暗い深淵の記憶を呼び覚ますからだろうか。

それなら、いっそのこと現代音楽風の邦楽を鳴らして、その前で怪談を語れば最高ではなからうか…と、ある夜、青い行燈の前で思いつき、この奇妙な作品は生まれた。

各種の「妖怪図鑑」や「怪談集」を読みふけり、最近完結した杉浦日向子の「百物語」(全三巻)に影響を受けつつ、構想一年、素材を集めること半年。作曲は1994年6月、じめじめと暗い梅雨入りの日の夜に完成した。(後略)
(作曲：吉松隆 1994.6.12)

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

笛
あか 潤
速藤 悠紀
新保 有生
竹井 誠 (尺八)
西川 浩平

箏
西原 祐二

尺八
大阪 悠司
田賀 夕山
原野 村聡
藤崎 重隆 (笛)
水川 寿康也
三橋 貴風
宮田 耕八朗

元永 拓
米澤 浩
渡辺 淳

三味線
杵家 七三
穂積 大志
簗田 弘司
守啓 伊郎
山崎 千鶴子

琵琶
久保田 晶子
首藤 久美子
田原 順子
藤高 理恵子

箏
伊藤 麻衣子
岡山 亮子
久東 寿子
熊沢 栄利子
桜井 智永
佐藤 里美
島城 崎美 ※
田村 法子
彦坂 恵美子
前本 桂子
丸岡 映美子
三宅 礼子
宮越 圭明
渡辺 正子

打楽器
臼杵 美智代
尾崎 太一
黒坂 昇
島村 聖香
仙堂 新太郎
多田 恵子
望月 太喜之丞
山内 利一
盧 慶順

指揮
稲田 康
田村 拓男
芒米 地英一

作曲
秋岸 寛久
川崎 絵都夫
篠田 大介
高橋 久美子
福嶋 頼秀

楽器・舞台
中島 隆

代表
田村 拓男

副代表
尾崎 太一

監事
宮田 耕八朗
三田 村典昭

運営委員
川崎 絵都夫
久保田 晶子
桜井 智永
久本 桂子
徳積 大志
元永 拓子
守啓 伊子

アートマネージメント
大西 愛子

事務局
中山 美穂子

永久名誉団員
長澤 勝俊
2013年6月現在
(※印は休団中)

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】(口数・五十音順)
[法人]
有限会社 文

[個人]
水野 正徳
皆川 正一
山本 昌男

*
青山 光枝
朝吹 英世
安倍 潔
池田 紫真榮

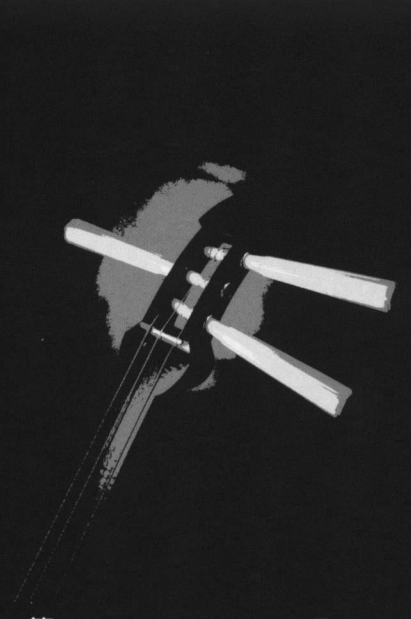
江西 縁
小野 永恵
柿崎 やよい
風見 万里子
小池 節子

佐藤 裕美
佐藤 玲子
杉山 英樹
添川 浩史
辻 淑子

東谷 仁
富山 優子
友杉 毅
西野 千恵子
藤川 雅之

元永 明希
元永 美代子
森 繁美
油谷 美穂子

他3名、会員数計30名
(2013年6月現在)



三味線・箏

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792)8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団